



発行所  
札幌聖心女子学院  
札幌市中央区宮の森3条16丁目10-1  
TEL (011) 811-9231

二〇二〇年度を振り返ってみると、コロナ禍の影響でこれまでに経験したことのない長期にわたる休校措置や例年よりも短期間となった夏季・冬季の休業や、聖ソフィア祭や友愛セール、中学三年生の修学旅行の中止など、異例続きの年となってしまいました。

五十三回生の皆さんにとっては、高校生活の最後がそのような年となり、大変残念に思っていたことでしょう。ただ、そうした中でも、それを少しでも前向きに捉え、様々な趣向を凝らしたイベント等を立ち上げるなど、下級生のことも考えた方策を考えていました。

結果的に、皆さんの苦勞が実って、様々なアイデアが生まれ、コロナ禍以降の学生生活にも活かしていることでしょう。また、オンラインで開催された環境や平和・核に関する国際会議に参加したりと、コロナ禍だからこそ活躍もありました。三年間取り組んだグローバルイシューズ(GI)でのアクシヨンプランを創り実行したことも含めて、将来のグローバルリーダーに求められる資質・能力を身に付けられたと

思いますし、それが、卒業研究発表に結実していたと思います。実に多種多様なテーマ(課題)に取り組み、情報収集を経た上で、課題の解決を図りながら発表に結びつけていくことができていて、感心しました。

また、例年行われていたクリスマスコンサートが、コロナ禍の中では実施ができませんとなった時、それに代わるクリスマス

マズ・ウィッシングを、全校がひとつになつて実施できるようリーダーシップを発揮してくれました。クリスマスの本当の意味を説明し、幼子イエスの姿においてになった救い主を、苦しむ人々の中に見つけようと呼びかけました。

自らを律し他者のための行動力を育むクリスマス・プラクティスでは、初めて経験する中学一年生にも丁寧に分かりやすく説明してくれたことで、「沈黙」

の大切さにも後輩たちが改めて気付く場面となりました。

そして行われたクリスマス・ウィッシング。会場には例年お迎えする多くのお客様の姿はありませんでしたが、新しい形で主の御降誕をお祝いすることが実現できました。事前に収録したミュージックベル、オーケストラ演奏、タブロー、「Come Emmanuel」、キャンドルサービス、そしてサイレントハレルヤの演奏は、動画配信でご覧いただいた多くの方々の感動を呼びました。皆さんの心の中にも深く残っていることと思います。

今回のこのコロナ禍は、人を選り分けることなく全人類にある意味等しく襲いかかる疫病で、この地上に住むす

べての人がひとつの共同体としてその運命を共にしていることを強く意識させたのではないかと思っています。フランスス・コ教皇様のお言葉のように、国力や経済的格差によって救済される人に差別があつてはなりません。勝

谷司教様のおっしゃるように、日本国内にあつても制度の狭間に落ち込んで孤立してしまう人がいないように目をこらすことが大切です。札幌市を始め

北海道内には多くの海外からの技能実習生や留学生が来ており、それらの方々への支援も緊急の課題となつてしまつた。

その中で皆さんは、クリスマス・プラクティス期間中に、静けさを創り出して内面を見つめ、同時に助けを必要としている方々の叫びを聞こうと努めました。そして、ホームレスの方々への支援と、コロナの影響で困窮する外国人の方々への支援を実現することができました。これはまさに、「二〇二〇年度の学校目標「知・信・愛の思いを届けよう」」の体現であり、素晴らしい行動力の実践となりました。

それは、イエスのみこころの想いに基づいた創立者聖マグダレナ・ソフィアの建学の理念のもと、気付きと振り返り、他者のために行動することの大切さを学んでいる皆さんだからこそ実践です。そして、皆さんは、生涯折りの人といわれ、苦難の中にあつても、すべての子どもに教育の機会を届けるために努力を続け、新しい未来を切り拓いた聖フィリピン・アヌシエンから、折りのうちに使命を果たす勇氣と行動力を学んできています。

これからも、嵐の中でも波にもまれでも、自分を失うことなく、折りのうちに想いを届け、社会をより良く変容していく女性となつて歩んでいられるようにと願ひ、はなむけの言葉とします。

Reach Out

～ 思いを届ける、祈りの中で～

校長 齊藤 隆 浩

## 百合の行列

マリア様のような  
女性に

十月十六日(金)、百合の行列が行われました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、例年のように全校生徒が体育館に集まるのではなく、数人に分かれて教室から体育館に向かい、マリア様に百合の花をお捧げしました。

私は百合を捧げる時や教室での沈黙のうちにマリア様について考えました。マリア様は芯の通ったしなやかな方でした。私もマリア様のような女性になれるよう、日々心がけていきたいと思っています。

(高二 武部 彩美)



## 全道高等学校

## 英語弁論大会

十一月一日(日)、北海学園大学で行われた高文連英語弁論大会に参加しました。

初めてのスピーチコンテストは緊張しましたが、練習通りにできて良かったです。練習している時の課題は、声の強弱をつけることでした。

始めは、恥ずかしさもあって思うようにできませんでしたが、練習を重ねるうちにコツを掴み、自信を持って本番に臨むことができました。約二十名の参加者が集まり、それぞれのスピーチに込められたメッセージや思いがどれも印象的でした。これからも英語を続け、英語を楽しく勉強しながら、新たな知識を身につけて、発見をしていきたいです。

(高二 田嶋 来未)

2 中 修養会での  
学び

十月十六日(金)の修養会ではシスター竹内からお話を伺い、友達との関わりを通して人との輪を広げ、神様の愛に気づくことができました。聖歌を手話で表したり、体育館でゲームを行い友情を深めたり、そして何よりシスターのお話がとても興味深かったです。シスター手作りの人形を使って友達の輪を広げることについて教えてくださり、私は今を大事に生きることの大切さなどいろいろなることを学ぶことができました。

3 高 最後の修養会  
での学び

私たち高校三年生は十月十六日(金)に高校生活最後の修養会に参加しました。林神父様からのお話の中で特に印象に残ったことは、思いやりや分かち合いの心をもつということです。普段その心をもって生活していてもすべて行動にうつす事は難しいですが、人にしてもらったことを自分もするなど、思いやりの心をもって行動することの大切さを改めて学ぶことができました。今回の修養会で学んだことをこれからの生活

た。また、修養会後に私たち一人ひとりにシスターが書いて下さった手紙は大切な宝物にしたいと思います。

(中二 笠井 紗妃)



で実践しようと思います。札幌聖心女子学院で培った三年間、六年間の学びを心に留めてまいります。

(高三 小林 恵里子)





## 北海道高等専門学校手話交流会

## オンラインでも

## 心は繋がる

私たち高校一年生二十名は十一月二十七日(金)に、北海道高等専門学校の一年生と手話交流会を行いました。今年度はオンラインでの開催となり、直接会って交流することはできませんでしたがお互いの学校紹介をした後、手話ソングを通して交流を深めました。手話の単語を教えていただき、最後には全員で歌を歌いました。今までの授業で学んだことを活かし、大変貴重な時間を過ご

## MOVIE DAY

私たちは十一月二十八日(土)、姉妹会の企画MOVIE DAYで、いくつかのグループに分かれて体育館や図書館で映画鑑賞をしました。

私は「ミス・ベレグリンと奇妙な子どもたち」という映画を鑑賞しました。その後の分ち合いでは、中学一年生から高校三年生までが一つのグループになり、印象に残った場面や、家族、友達にこの映画に点数をつけて紹介するなら何点かなどを話し合いました。多くの学校行事が

することができました。今回ご協力くださった聾学校の方々、先生方に感謝し、この交流で学んだことを今後の学校生活に生かしていきたいです。

(高一 福本 あめり)



中止になってしまった中で、このMOVIE DAYは世にとっても良い思い出になったと思います。

(高三 菅原 愛梨)



## クリスマス・ウィッシング

サイレント  
ナイト

札幌聖心女子学院の生徒にとつて、毎年十二月に行われるクリスマスコンサート、そしてクリスマスコンサートに向け静寂の時間を持ち他者に思いを寄せるクリスマス・プラクティスは一年の集大成とも言える大切な行事でした。今年は、コロナウイルスによる影響で実施が危ぶまれた中、クリスマス・ウィッシングという形で主イエスキリストの御降誕をお祝いできたことは大きな喜びでした。

十二月十九日(土)のクリスマス

ス・ウィッシング実施にあたっては、様々な場面でシスター並びに先生方のお力を借り、全校生徒が一丸となり準備を行いました。十日間のクリスマス・プラクティスでは、皆が他者のために行動を起こし、自らを制



(高二 加世田 紗衣)

することの大切さを学びました。新型コロナウイルスの感染防止を考慮した新しい様式でのクリスマス・ウィッシングのあり方を模索しました。

中学一年生から高校三年生までの生徒全員で作りがけた今年のクリスマス・ウィッシングは去年のものとも、そして来年行われるものとも異なります。このような状況下で私達ができることを考え、新たなことに挑戦し、練習し、努力してきた集大成であるクリスマス・ウィッシングを仲間たちと作り上げることができたことに深く感謝するとともに、このクリスマス・ウィッシングが札幌聖心女子学院の伝統を次に繋いでいく礎となることを信じています。

## 高一 SADDIE

三日間の  
研修を終えて

私達高校一年生は、一月二十日(水)から二十二日(金)までの三日間、SADDIEに行っていました。

新型コロナウイルス感染防止対策を実施するなかでの宿泊研修は様々な制限がありました。実りの多い研修となりました。自分を振り返り見つめ直すという経験が初めてだったので新鮮でしたが、答えが見つからないことも多く、この三日間はとても長く感じました。

SADDIEのためにPCR検査を受けて、長崎からかけつけてくださった松本神父様は、色々な方法で私達に



自分自身と向きあう方法を教えてくださいました。神父様がかけてくださる言葉の一つ一つに包みこむような温かさがあり、きつとそれぞれに自分の気持ちを整理することができたのではないかと思います。三日目に神父様が「このSADDIEを経験したか、していないかでその人の人生は大きく変わってくる」とおっしゃっていました。そのような貴重な経験をさせていただいたのだと分かり、私は本当に札幌聖心女子学院に来て良かったと思いました。

最後に、私達を導いて下さった松本神父様、美味しい食事を用意して下さった施設の方々、私達をあらゆる面から支え、引率して下さいました先生たち、この研修に携わって下さった全ての皆様に感謝いたします。

(高一 白石 志帆)

NAGASAKI  
高二・見学旅行

## 祈りの見学旅行



私たち高校二年生は、一月十九日(火)から二十日(金)の四日間、長崎と佐賀に行っていました。長崎では教会を訪れ原子力爆弾について学びを深め、佐賀では吉野ヶ里遺跡を見学しました。この四日間で印象深かった事は二つあります。

一つ目は一日目の被爆講話です。現在被爆者から直接お話を伺う機会が少ない中、とても貴重なお話を聞くことができました。その中で発せられた「平和は絶対に必要な」という言葉に私は心を打たれました。今私たちが住む世界は戦時中と比べて明らかに平和かもしれないけれど私たちはその平和が続くように何をすべきなのかその言葉を聞いた時に考えました。私たちは今回のお話を後世に語り継ぐと同時に、平和のために何ができるかを考え、行動にうつしていかなければならないと思いました。



二つ目は大浦天主堂を訪れた事です。そこはステンドグラスがとても綺麗で圧倒されました。中ではマリア様の像が私達たちを待っていました。私はその教会で起こった出来事を頭の中で浮かべながらマリア様の方を向いてお祈りをしました。マリア様は温かい笑みで私達たちを見守っていました。私はこの見学旅行で、多くの教会を見て回りお祈りをしたことでその大切さや一つひとつの教会の背景についての知識を深めました。コロナ禍の中制限された事も多くありましたが、沢山の学びと思い出を作ることができ、最高の見学旅行となりました。この旅行で引率して下さった先生方をはじめとするすべての方々に感謝いたします。

(高二 丸尾 季姿)





高3 卒業研究発表会

大学への第一歩となった  
卒業研究

私達高校三年生は一月二十八日(木)、二十九日(金)の二日間、卒業研究発表会を行いました。この日のため高校三年生一同は十月から準備を進めて参りました。私は「北海道方言の特徴とその現状」というテーマで研究を進め、方言の特徴を考察したうえでアンケートを取りました。アンケートにはたくさんの方に回答いただきました。

当日はそれぞれが毎日遅くまで準備をした成果を発揮し、緊張感の中で最善を尽くすことができたと思います。

今回の研究の内容や方法を、大学の学習にも活かしていきたいです。

(高3 富永 有奏)



高校卒業証書授与式

希望を胸に

第五十四回高等学校卒業証書授与式が二月六日(土)に行われました。今まで私たちが様々な場面で導いて下さっていた高校三年生の方々が先生方、ご来賓・保護者の方々に見守られながら卒業されました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大と蔓延を防ぐため、在校生は卒業式に出席できませんでしたが、校内での装飾や前日に開催された送別会等で各々が高校三年生の皆さんに感謝を伝えていました。

式は、田代先生が伴奏する「威風堂々」に合わせて卒業生が厳粛な中、堂々と入場し始めました。卒業生の伴奏による国歌演奏後、カト



リック札幌司教区勝谷司教様・父の会長東様からの祝辞、在校生代表の加世田紗衣さんの送辞、卒業生代表の吉田真季さんの謝辞は感動的であったと伺いました。

最後に、高校三年生の皆さまご卒業おめでとうございます。新型コロナウイルスの蔓延により行動が制限されるなかでも、私たち下級生にお手本を示してくださり本当にありがとうございました。高校三年生の皆さまが卒業され、私たち高校二年生が最上級生となり全校をリードする立場になります。不安もありませんが、今まで教えていただいたことを胸に精進致します。卒業生の皆さま

コロナ禍でも

充実したスキー学習



私たちは一月二十六日(火)にスキー学習で盤渓スキー場に行ってみました。去年に比べ降雪量が少なく、コロナ禍という状況の中で今年もスキー学習が出来るのかとても心配でした。予想通りコース上には雪が少なく、植物が見えている場所がいくつかありましたが、その中でも楽しくスキーで滑ることが出来ました。また、インストラクターの先生にたくさんアドバイスをしていたいただき、短い時間の中でスキー操作を上達させることができました。来

のこれからの活躍をお祈りしています。  
(高2 瀬川 ころこ)



年は例年通り、沢山の雪が降り積もった雪山で皆でスキーを楽しみむことができた良いと思います。  
(中3 小川 桃京)



中3 英語研究発表会

一年間の集大成

私たち中学三年生は二月十九日(金)に中学卒業研究発表会を行いました。約一年前から始めた研究を通し、人との関わりや、調べた内容をまとめる力などたくさんの方の学ぶことができました。中学三年生全員が想いを込めて発表できたと思います。

皆がそれぞれ調べてきた内容をパワーポイントにまとめた形で発表し、それを見て聞くことで、様々な分野の知識を深めることが出来ました。また、伝わりやすいようにスライドを工夫していた点や表現の仕方など、参考になるものばかりでした。私が取り組んだテーマは「なぜ海洋ごみは増え続けているのか」です。テーマについての自分なりの仮



説を立てています。立てた仮説が正しかったかどうかを見極めるために資料を収集し、取材をします。漁師さんや、海洋ごみを減らすための活動をしている方にインタビューを行い、今、解決すべき課題を聞き、その解決方法を考察することができました。コミュニケーション力を養うこともでき、この研究を始める前よりも知識が増えたため、物事について考える視野が広がったと思います。自分が知りたいと思うことをテーマにしたことで楽しく研究を進めることが出来ました。

課題に対し、自分の意見をまとめることは、これからの学びにつながる力になりました。今後も海洋ごみを減らすことへの啓発活動が続けていきたいと思います。最後に私達を支えてくださった先生方に感謝いたします。(中三 村上 心)

受賞おめでとう



実用英語技能検定 奨励賞

札幌聖心女子学院中学校

第70回全国小・中学生作文コンクール

北海道審査優秀賞 中二 安倍 朱璃

第66回札幌市読書感想文コンクール

札幌市長賞 高一 目良茉莉香

優良賞 高三 児玉 優子

佳作 高一 菅原 花未

北海道牛乳普及協会・ホクレン農業協

同組合連合会主催 牛乳・乳製品レシ

ピコンテスト実演審査

優良賞 高二 齊藤 りこ

高文連第21回全道高等学校

英語弁論大会

第5位 高二 田嶋 来未

第1回高校生英語ディベートHENDA

合同予選会オンライン

第5位 高二 北川 愛梨

高一 長嶋 美桜

高一 俞 敬華

高二 加世田紗衣

第66回青少年読書感想文全道コンクール

北海道教育文化協会賞

高二 児玉 優子

第16回日能研文学コンクール創作部門

奨励賞 高三 上山 舞唯

第17回北海道地区高校生中国語発表会

ZOOM大会

初級の部 優良賞 高二 中西 舞

入門の部 優良賞 高一 福本あめり

第22回北海道韓国語弁論大会

金賞 高二 山岡 詩恵

第48回中学生作文コンクール

入選 中一 上鹿渡凛乃

第59回全国高等学校

生徒英作文コンテスト

一年の部入選 高一 中村 友香

一年の部入選 高一 福本あめり

第73回札幌市中学校体育連盟スキー

選手権大会(アルペン) 女子大回転

総合8位入賞 中一 石水 香梅

2021年ぬかびら源泉郷ユースSL

/GS競技大会(アルペン) 女子大回転

総合9位入賞 全国大会出場権獲得

中一 石丸 り子

第3回持続可能な世界・北海道

コンテスト

優秀賞 高三 伊藤 初音

高三 西村和歌子

高三 西村 萌

JICA国際協力中学生・高校生

エッセイコンテスト2020

佳作 高三 豊嶋 紅安

2020年度北方領土中学生作文

コンクール

佳作 中一 都筑 暖和

第32回読書感想画中央コンクール

第8回全道コンクール 高校の部

最優秀賞 高三 須藤 みな